

1 学校教育目標

【教育目標】 『地域の信頼と期待に応える芦高教育の創造と実践』

地域からの注目や期待が大きいなか、それに応えるためには、どのような子どもを育て、どのような取り組みをしなければならぬかを常に考えて行動する。そのためには、本校の校訓「敬愛・勤勉・創造」の具現化に取り組み、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育て、活気に溢れた学校づくりを目指す。

【目指す生徒像】

- ・人の心の痛みのわかる（相手の立場にたてる）生徒を育てる
- ・自然とあいさつのできる生徒を育てる
- ・夢に向かって努力する生徒を育てる

挨拶や服装など基本的な生活習慣が身につけており、当たり前のことを当たり前に実践し、自分の意見や考えをしっかりと周囲に伝えることができ、何事にも果敢にチャレンジする芦高生を育てる。

【Challenge for your Dream! 芦高で君の夢に果敢にチャレンジしよう!】

【教師の目標】

- (1) 「生徒一人ひとりを理解し、優しさと厳しさを持った深い愛情で見守るとともに、生徒・保護者・地域の思いを受け止め、目指す生徒像の実現に努力する」
- (2) 校務改革で、「教師力」「担任力」そして「人間力」を磨き、可能性にチャレンジする生徒を育成する。

2 本年度の重点目標

(1) 基礎学力向上

- ア 一人ひとりの生徒に応じた授業の工夫や改善と個別指導を徹底する。
- イ 図書館の活用と読書指導の徹底による、読む力、考える力、表現する力を育成する。
- ウ 学力向上のための学習支援の実践（スタディサプリ等の活用による学び直し）
- エ 教師と生徒が一体となった授業（公開授業の実施、グループ学習等の導入、資格取得の実施など）
- オ 教育の情報化と校務のスリム化による指導時間の確保と徹底（PC・タブレットやプロジェクターの活用、教材のICT化、HP掲載、プレゼンテーション活用）

(2) 健全な心と身体を育む生徒指導

- ア 生活指導を充実させ、基本的な生活習慣を確立することで、生徒の健康・安全教育の推進を図る。
- イ 教育相談体制を充実させ、生徒の心のケアと安心して学校生活を送れる体制づくりに努める。
- ウ 部活動を推進し、生徒の心と身体の鍛錬と活気溢れる学校生活を実現する。
- エ ボランティア活動や環境保全活動等とおして、郷土や自然を愛し、大切に心身の育成に努める。

(3) 夢を拓けるチャレンジ

- ア 地域の信頼に応える教育を充実させるとともに、グローバルな視点で物事を捉え、社会の形成者としての資質を育み、様々な課題にチャレンジする生徒の育成に努める。
- イ 専門教育をおして経営感覚を磨き、地方創生を意識した地域活性化に寄与する人材の育成に努める。
- ウ キャリア教育の視点に立った系統的な体験学習を通して、進学・就職へ果敢にチャレンジする生徒の育成に努める。
- エ 学校農業クラブ活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、地域との連携強化を図り、地域の活性化と魅力ある学校づくりに努める。
- オ 教師も人間力や資質向上のために絶えまぬ研鑽に努める。

(4) キーワード

- ア 「チャレンジは無限の可能性を引き出す」
考えてばかりでは始まらない。何事も行動をおこし、併せて考えればよい。
- イ 「命を大切に教育」
命を育て、食を育む農業教育、資源と環境を保全する林業教育、高齢社会における介護や福祉を支える福祉教育、三位一体となった芦高教育の実践。
- ウ 「保護者と地域が最高のサポーター」
生徒・保護者・教師そして地域が一体となって教育による人材育成を実践する。
- エ 「郷土愛」
田畑をはじめ海や山や温泉の豊かな恵みに感謝するとともに地元を見つめ直し、郷土愛が自信と誇りへと繋がる教育の実践。

3 自己評価総括表

評価の項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	魅力ある学科づくりの推進	平成30年度の3学科の募集定員120名に対し、合計90名以上の入学生を確保する。	中学校や地域との連携を更に深め、芦北高校の魅力を地域へ発信し、また、各科の特色を活かして生徒募集に繋げる。	B	農業科は地域と連携した商品開発等を行い、林業科は公務員や国立大学進学で好成績を収めた。福祉科は災害時高齢者支援講習等の新たな取組を行った。農業クラブ全国大会に4人が出場し、2年連続最優秀賞をはじめ全員が入賞できた。月1回中学校を訪問し「芦高だより」を配付したが、生徒募集には課題が残った。
		部活動の活性化	部活動加入率90%以上を目標として部活動活性化に繋げる。	魅力ある部活動の運営を通して、生徒が意欲的に活動できる環境を作る。部活動顧問の専門性を活かした地域との連携を深める。町の支援事業を活用したレベルアップ事業において、スポーツ界等で活躍する優れた講師を招聘し、生徒の夢へのチャレンジを支援する。	A	部活動加入率は93%と目標値を上回り、空手道部・新体操部・弓道部が全国大会出場を果たし、相撲同好会も九州大会に出場した。レベルアップ事業では、元オリンピック選手を招き、全ての部活動生を対象にした競技力向上講座を開催した。企画・運営を地域と連携し、地域の小中学生も招待することができた。
	危機管理	不祥事防止の徹底	不祥事ゼロを目指すし、地域から信頼される学校づくりを目指す。	月に2回、芦北高校不祥事防止確認事項を朝礼で読み上げ、不祥事防止意識を高める。定期考査や長期休業期間に職員研修を実施する。	B	不祥事防止確認事項の読み上げは月2回行うことができた。職員研修は平均月1回行い、うち不祥事防止に係る研修を4回実施した。
学力向上	授業力向上のための取り組み	授業の充実	校外の各種研究授業や講習会に年1回以上参加して、指導力の向上や技術の習得に繋げる。専門教育におけるTT授業の活用。	各教科でいわゆるアクティブ・ラーニングを重視した授業改善を行い、わかる授業の実践に努める。実技・実習を伴う教科・科目では複数の教師の協働による指導力向上と技術の習得及び安全確保に配慮する。	B	校内研究授業では、全ての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点を意識した授業展開ができた。学期末の授業評価アンケートの結果を比較しても改善傾向が見られる。
		公開授業週間を年2回、研究授業を各教科年1回、授業評価を年2回実施する。	公開授業・研究授業、生徒の授業評価を実施し、課題の分析による授業改善とICTを活用した授業を展開する。	C	公開授業では来校者数が少なく、検討が必要である。ICTの活用は一部の教科のみにとどまっている。	
	「確かな学力」の定着	自ら学ぶ学習の奨励	生徒一人あたり年間10冊以上の読書量の確保を目指す。毎月1回、漢字、計算テストを実施する。生徒一人あたり1時間以上の家庭学習量を確保する。	朝の10分間読書の充実を図る。月1回の漢字、計算テストの実施と事前学習に力を入れる。家庭学習時間確保のため課題を工夫する。長期休業期間中、課題を出し学習させる。町の支援事業で導入したスタディサプリを学科・学年及び教科で活用する。	B	朝読書及び朝学習が定着し、落ち着いた雰囲気の中で1日がスタートしている。漢字、計算テストは学年が中心となり成果を上げ、基礎学力向上につながっている。長期休暇中の課題は各教科で計画的に出題されている。スタディサプリは運用等について進路指導部との連携が必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の早期確立	進路情報の収集と活用	生徒の進路選択の情報として、各学期2回以上進路行事を行い、校外のガイダンスや見学会に生徒が2回以上参加する。	細かな進路希望調査、生徒一人ひとりの進路面談を通して、進路希望を具体的に把握し、実現へ向けた積極的な働きかけを行う。	B	卒業生講演会、進路講演会、企業見学をはじめ、多くの進路行事を実施できた。学年を問わずオープンキャンパスや就業体験への参加も積極的であった。
	進路保障	2月末には、希望進路達成100%を目指す。全職員による面接指導の充実。	進路希望調査を基にした進路指導や企業求人開拓の実施、進学支援体制の確立や個別指導の充実を図る。	A	公務員は過去10年間で最高の合格実績をあげ、進学は国立大学に3名合格した。就職も100%内定し、県内就職が80%を越えた。小論文や面接等の指導を、全職員で協力して行うことができた。	

	資格取得の奨励	年間実施計画の提示と推進	生徒一人ひとりが進路実現に繋がる資格取得に2つ以上挑戦できる環境づくりを目指す。	各学科や学年、クラス、教科の協力のもと、資格試験の周知や勧誘を行い、資格取得の学習支援体制を確立する。	B	各学科・学年の協力もあり、昨年度並みの検定試験への取組があった。また、3年生の履歴書資格欄に特記事項なしと記載する生徒が今年度もゼロであった。
生徒指導	健全な心身の育成	基本的な生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	「人の心の痛みがわかる生徒」の育成。遅刻者の減少と整容指導の徹底。挨拶の励行と責任ある行動。公共意識を向上させる。特別指導件数10件未満を目指す。	挨拶運動・登下校指導や学校生活全般において、思いやりの心と責任ある行動を意識づけさせる。月1回の全校集会・全職員による服装検査授業前の整容指導を実施する。	B	朝学習の取組により始業時間の遅刻者はみられなくなったが、朝学習に遅れる生徒が出はじめた。生活面では、立ち止まって気持ちの良い挨拶を行う生徒が増えた。今年度の入学生から新制服となり、学年と協力し整容指導に力を入れた。
	情操教育の推進	安全教育の理解と徹底	交通違反・交通事故0を目指す。校内だけでなく、校外での二輪車施設率の向上を目指す。薬物乱用等に対する理解の徹底。良識ある携帯電話の使用と携帯電話のセキュリティ対策指導。	クラス指導の他に、講話・講習・講演会を実施し、話し合いの場を設ける。交通委員による二輪車の施設呼びかけ。関係機関と連携した情報安全教育の講演会を実施するとともに、携帯電話の使い方など研修内容の工夫に努める。	B	J A主催による「スタントマンを活用した交通安全教室」を実施し、生徒の交通安全に対する意識づけに高い効果があった。芦北警察署から携帯電話に関する情報安全・情報モラル教育に関する講話をいただいた。ネットトラブルに関する問題行動は0件だった。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	教職員の実践的指導力の向上	全職員が校外研修会へ1回以上参加し、意識向上と指導力向上を図る。	職員への研修案内と参加呼びかけを定期的に行い、全職員校外研修に参加する。LHR等での指導力向上に向けた事前研修の充実を図る。	B	外部研修の案内が遅れ、研修の機会を周知することができなかった。地元で行われる研修会への参加を積極的に呼びかけたい。
	すべての教育活動を通じた取組の強化	課題を抱えた生徒への支援と対策	各校務分掌と連携を図り、生徒の実態を把握し、いつでも、どこでも、すぐに対応できる職員の体制作りを行う。	担任・学年会・教科会・特別支援教育・教育相談の各担当者との連携を図り、研修をとおして全職員の共通理解を深め実践力を強化する。	B	心のアンケートをとおして、問題を抱えている生徒に対して早期に対応することができた。
	命を大切にすることを育む指導の充実	命の大切さを実感させる教育の推進	命を大切に、自尊心を高め、お互いを理解し合い、認め合う心を育てる。	全校集会やサマースクールなどで命に関する全体講話を実施する。教育活動全体を通して全職員が自分の言葉で語り、生徒と共に互いの信頼関係を築く土台作りをする。	B	全校集会時の先生方の話にしっかりと耳を傾け、今の自分にとって必要なことを考えることができる態度を育成することができている。
いじめの防止等	いじめ根絶の啓発・推進	いじめを絶対に許さない学校づくり	人の痛みがわかる生徒の育成。いじめに関する問題行動の根絶を目指す。全クラスで生徒面談を学期1回以上行い、情報収集と共有に努める。	いじめ防止に関する講話を実施して、生命や人権を大切にすることを育む。「目指す生徒像」「いじめを許さない宣言文」を教室に掲示し、啓発に努める。	B	人権教育に関するLHRを計画的に実施することで、生徒に正しい人権感覚を植え付けることができた。さらに内容を検討し、地元の実態に合ったものと考えていきたい。
	いじめの防止と早期発見	いじめ防止や早期発見・早期対応	心のアンケートを年3回実施して、いじめ問題の実態を把握し、対策を早急に取り組む。いじめの把握においては、関係機関と連携を密に取りあい早期対応に取り組む。	心のアンケート結果を基に、実態把握に努める。(年3回のアンケート実施)いじめ防止等対策委員会を3回実施し、外部識者から指導・助言を仰ぎ、取組についての検証を行う。	B	心のアンケートを年3回実施することで、生徒間のトラブル等を未然に把握し対処することができた。外部有識者から指導・助言を得て生徒への細やかな対応ができた。

教育 相談	特別支援教育	支援対象生徒について早期の支援開始	保護者、中学校、職員から得た情報を迅速に集約する。生徒理解の職員研修等を学期に2回行い、全職員の共通理解を図る。 保護者の理解を得て、支援を開始する。	「保護者の気づき」「中学校訪問記録」で新入生の実態を4月中旬までに把握する。「気づきメモ」週間を学期に1回実施する。教科担当者会をふまえ、個別の教育支援計画を作成し、生徒理解研修を実施する。	B	支援対象生徒について担任による個別の教育支援計画・指導計画の作成を行い、その後の生徒理解研修に結びつけることができた。しかし、気づきメモや教科担当者会議を活用した十分な支援方法について、検討を深めることができなかった。
		支援対象生徒の進路保障	支援対象生徒（3年生）の進路決定100%を目指す。1・2年生の進級を目標に、あらゆる場面で支援を行う。	担任、進路指導部、教育相談部、関係機関と連携を取り、保護者の理解を得て進めていく。	B	3年生は学年と進路指導部との連携により、生徒の希望通りの進路決定ができた。1・2年生については職員間での共通理解を今後も深めていきたい。
	教育相談	生徒の実態把握と課題解決	欠席が続く生徒、その他精神面への支援が必要な生徒の課題解決を図る。 職員が一人で抱え込まないための相談体制の充実を図る。	定期的に教育相談校内委員会を開催し情報交換を行う。 スクールカウンセラーを活用し課題解決に向けた方策を検討する。 必要に応じて医療機関や福祉事務所等と連携を図る。	A	定期的に教育相談委員会を実施し、情報交換を行った。スクールカウンセラーや養護教諭を中心として生徒・保護者・担任との連携を図り、関係諸機関との連携も図ることができた。
地域 連携 (コミュニ ィ・スクール など)	コミュニティ・スクールをはじめとした地域連携の体制づくり	災害時の地域連携体制づくり	学校運営協議会を5回開催し、災害時における地域連携の基本計画を作成する。	町との連絡体制、地域住民の受入、避難所運営、地域合同防災訓練の検討。	B	学校運営協議会を5回開催し、校内の避難所運営マニュアルを作成した。地域と連携した防災体制の充実については、今後も継続した取組が必要である。
		平常時の地域連携体制づくり	学校運営協議会の1回を、平常時における地域連携に充て、具体的方策を協議する。	佐敷小・中学校及び芦北支援学校佐敷分教室との交流活動、乙千屋地区住民の参加型交流活動の検討。	B	佐敷小・中学校及び芦北支援学校佐敷分教室との共同及び交流学習は各学科で実施することができた。林業科のホタル研究班が、ホタル再生活動の一環としてネコヤナギの植栽を乙千屋地区住民と共同で行い、新聞にも紹介された。災害時以外での地域との連携は、今後も検討を重ねていきたい。
		芦北町芦北高校総合支援事業の有効活用	芦北高校総合支援事業を有効に活用する。	各事業の趣旨を踏まえ、十分な効果が高まる活用を実践する。特にレベルアップ事業の活用と、生徒の進路決定につながる活用に力を入れる。	B	海外研修や資格取得、部活動生の競技力向上等に有効活用することができた。特に公務員指導におけるスタディサプリの活用は、過去10年間で最高の合格実績につながった。芦北高校総合支援事業を活用し、全ての生徒の基礎学力向上や希望進路の実現に資する魅力あるプログラムを今後も考案し、本校教育の魅力としてアピールしていきたい。